

## ・ - 2003年度人間科学研究所研究活動の総括 -

人間に関する諸学問を連携・融合させ発展させようとする動きは、近年のわが国における学術研究活動の顕著な特徴のひとつである。こうした動きの中で本研究所が現在取り組んでいる学術フロンティア推進事業「対人援助のための人間環境デザインに関する総合研究プロジェクト」の中間報告(前年度末に提出)は高い評価を得ることができた。現在(2003年度)は4年目であるが、来年の最終年度のまとめにむけて鋭意研究に取り組んでいる。また、日本学術振興会が2003年度から開始した「人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業」において、本学人間科学研究所の専任研究員が提案した研究(「ボトムアップ人間関係論の構築」)がこのプロジェクトに採択された。これらは研究所におけるこの間の取り組みの独創性・有意義性が社会的に評価されていることの若干の例である。

つぎに、箇条書き風に今年度の研究活動にみられる主要な特徴点を記す。

### 1. 2004年度学内提案型プロジェクト募集にたいする応募の取組み

学内提案型プロジェクト募集へのエントリーに際して、「」人間科学研究所の今後の活動(中長期課題の策定)を見つめること、「」研究所への多数の研究者の糾合をはかる方向で意見を集約すること、また「」研究所のこれまでの研究活動を継続するとともに新しい領域の開発

をめざすこと等を確認しあって、研究所重点プロジェクトとして研究テーマ「人間科学・その基礎と応用領域の研究」(幹事:望月昭教授他23名)を掲げ応募した。結果は「採択、但し2004単年度」であった。採択理由は「学術フロンティア研究最終年度」の研究集大成のためである。応募にあたって話しあわれた議論内容の整理を含めて、学内公募型研究プロジェクトのエントリーのための今後の教訓として結果を厳粛に受けとめたい。なお萌芽・短期展開研究として「視覚・触覚・自己受容覚における方向の知覚」(幹事:東山篤規教授)が採択された。

### 2. 新しい研究領域への展開

日本学術振興会「21世紀人文・社会科学振興のためのプロジェクト事業」の一環として「ボトムアップ人間関係論の構築(代表・佐藤達哉)」が採択された。この事業は、グローバル化、情報化が進む中、特に民族、宗教、精神生活、社会規範や制度をめぐる問題など、現代社会において人類が直面している問題の解明と対処のため、人文・社会科学を中心とした各分野の研究者が協働して、学際的・学融合的に取り組む「課題設定型プロジェクト研究」を推進するとともに、その成果を社会への提言として発信することを目的とするものである。また、学術フロンティア推進事業の充実を目的として申請した科学研究費「対人援助実践情報の階層構造化についての研究(代

表・望月昭)」も 2003 年度下記より採択され、プロジェクトのさらなる充実をはかっていく。

### 3．学外からの委託研究の受け入れ

昨年度に引き続き、今年度もまた学外 - 自治体・企業・機関・協力団体など - からの研究委託があり研究所の社会的需要の高さを示している。

- 1) 社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会からの研究委託調査「支援費制度利用者満足度調査」を受け入れる。期間：～2004 年 2 月 28 日，研究業務実施担当者：野田正人教授他 3 名。
- 2) 財団法人京都市ユースサービス協会との共同研究「ユースワーカー養成のための専門プログラム開発の研究」の発足。期間 2004 年 1 月 5 日～2005 年 3 月 31 日，研究代表：津止正敏教授。
- 3) J-Phone (Vodafone) との学外共同研究 研究代表・望月昭教授。(昨年度より継続)

### 4．海外協力事業および研究交流

JICA プロジェクト「ヴェトナムの障害児教育における専門教員養成コース支援事業」受託。代表：荒木穂積教授ら「ハノイ師範大学プログラム支援」、「ホーチミン市師範大学校で開講」のために 2003 年 8 月ヴェトナム訪問。2003 年 10 月ハノイ師範大学バオ学長・イエン障害児教育学科長ら人間研等へ来訪。

受託研究とは別に、多くの研究者を迎えた。2003 年 12 月オランダ・ボムポファブラ大学・ファンデルベルデン教授来訪・講演。2004 年 1 月、アメリカ・クラーク大学・ヴァルシナー教授(本学客員教授)来訪・公開シンポジウム。

### 5．研究所の研究理念や目標の特色をふまえた「人間科学の発展に寄与するキーワード集・辞典」刊行計画

- 編集体制・執筆体制・刊行見込み経費の見込みなど - の話し合い。分野の異なる多くの人々が協同するためにキーワード集の作成は有効ではないかと思われ、今後も継続課題としたい。

あわせて「対人援助活動に関する学会」結成の動きについて話題となる。

### 6．研究所におけるインフラ環境の整備の取り組み

時空を超えた交流のためにはインターネットなどを用いるのが有効であり、HSP(ヒューマンサービスプラットフォーム)の稼働(充実)、人間研第二サーバーの導入(HSPのコンテンツ充実と人文・社会学振興事業への貢献)など、ハード面の環境を整備した。データベースや地域に向けた情報交換の仕組みを充実させるため、従来の学術フロンティア推進事業の予算に加え、この情報プラットフォームの充実をも目的とした科学研究費「対人援助実践情報の階層構造化についての研究」や、学内外の研究活

動の交流を重視している受託研究「ボトムアップ人間関係論」の資源を併せて活用した。

## 7. その他

本研究所の運営委員は研究所が関連諸学の教員(常勤講師・非常勤講師含む)院生のプラットフォームになるような環境作りが重要であるという認識で一致しており、今後もその方法を模索して

いきたい。

また、学外に公開したシンポジウムやワークショップはいずれも多くの出席者を得ることができており(詳細は別記)この領域に対する学外者の関心が高いことをうかがわせると共に、本研究所が一定の役割を果たしうる分野であることを示していると思われる。今後もますますこうした学外向けの企画も充実させていきたい。